

# 哲学

P-01-39-L

## 教員名

教養・医学教育大講座 哲学  
准教授 竹山 重光

## I 授業の目的

科学哲学ならびに科学史的な観点から、「病気」という概念ならびにその現実的事態と、それに対する理解の諸相とを、できるかぎり具体的事例に即して理解する。これを通じて、自然科学的な営みの思考様式などを理解する。

## II 到達目標

1. 論理的観点から「概念」なるものの諸相を区別し説明できる。
2. 「病気」のさまざまな原着想 (proto-ideas) を理解し、それらを相互の差異とともに説明できる。
3. 病気の具体的事例についてなされた諸探究と思考展開の大筋を説明できる。
4. 因果関係の諸相を理解し説明できる。
5. 病気の「理解」と「対応」との関係を熟考できる。

## III 教育内容

この講義は、たとえば放送大学などでなされているような、ほぼ完全に一方通行のやり方で行なわれるのではない。倫理学や哲学という学問分野は、そういうやり方が最もなじまない分野の一つである。この講義は事項伝達をするのではない。思考を展開する試みである。

私は授業時間中に君たちにしばしば質問する。いわゆるコメント・ペーパーを書かせることもある。講述内容の大きな区切りにおいて、中間試験的なものを行うこともある。そして、それらの結果や君たちの反応を鑑みて、講述内容を取捨選択したり、講述順序を変更したり、講述の濃淡を変化させたりする。現在なされている最新の議論を紹介することもある。

したがって、いついつの授業ではこれこれの内容を取り扱うなどという具合に呈示することは、この講義については不適切であり、無理やりそうして、そのとおりにするとしたら、むしろ不誠実である。哲学や倫理学の場合、そういうやり方にそもそもたいした意味はないゆえ、以下に掲げる表はきわめておおざっぱな目安でしかない。変更はありうる。

## 講義日程表

No.	月日	曜日	時限	項目	担当教室	担当
1	R7.9.1	(月)	1	病気という概念あるいは事態など	哲学・倫理学	竹山
2	R7.9.8	(月)	1	Crisp な概念と vague な概念など	哲学・倫理学	竹山
3	R7.9.22	(月)	1	病気の ontological-substantive な原着想など	哲学・倫理学	竹山
4	R7.9.29	(月)	1	病気の ontological-substantive な原着想など	哲学・倫理学	竹山
5	R7.10.6	(月)	1	病気の physiological-functional な原着想など	哲学・倫理学	竹山
6	R7.10.20	(月)	1	病気の physiological-functional な原着想など	哲学・倫理学	竹山
7	R7.10.27	(月)	1	自然科学の経験主義と一般主義など	哲学・倫理学	竹山

